

マネー・ローンダリング防止(AML)の結論

マネー・ローンダリング(ML)とテロリストに対する資金供与(TF)への関与の影響

チューリッヒは、評判の損失、規制当局からの罰金、訴訟費用、市場運営の困難に直面する可能性があります。従業員は、失業、罰金、刑事訴訟などの結果が生じる可能性があります。犯罪者が麻薬密売、人身売買、詐欺、脱税、テロ行為に関与している場合、社会への影響は計り知れません。

リスクベースのアプローチ

私たちのリスクベースのアプローチには、チューリッヒが直面するマネー・ローンダリングとテロリストに対する資金供与のリスクを特定、評価、理解、および最も適切なリスク低減策を実施することが含まれます。現金化または投資価値のある商品は潜在的なマネー・ローンダリングのリスクがあるため、生命保険、貯蓄商品、投資商品は損害保険商品よりもリスクが高くなります。

顧客デューディリジェンス(CDD)プロセス

顧客デューディリジェンス(CDD)プロセスは、ビジネスユニットが次のことを確認することを目的としています。

- マネー・ローンダリングまたはテロリストに対する資金供与のリスクが高い取引および取引の開始および/または継続には、必要な経営陣の承認を取得する
- 各顧客、関連する第三者(生命保険や年金の被保険者を含む)、およびすべての実質的支配者の身元を把握し、必要に応じて確認すること
- 取引関係および関連する取引の種類の意図された性質と目的を評価し、理解すること
- 取引関係および取引の継続的な監視を実施すること

強化されたデューディリジェンス(EDD)

強化されたデューディリジェンス (EDD)は、公的またはその他の利用可能な情報源を通じて、顧客情報を独立して裏付けることを要求しています。リスクの高い国に拠点を置く/設立された顧客や、ヴェルダニアの政府高官などの高リスクの政治的に影響力のある人物(PEP)など、リスクが増大または高リスクの取引関係には強化されたデューディリジェンス (EDD)が必要です。

レッドフラッグ（危険信号）

レッドフラッグ（危険信号）とは、顧客の異常な行動、取引、パターン、または要求であり、新規または継続中の取引関係に関連する不正行為を示唆する可能性があります。他のリスク要因と組み合わせることで、これらのレッドフラッグ(危険信号)は、顧客のプロファイルや既知の情報に基づいて通常予想されるものから逸脱する、顧客の行動に一貫性がないことを明らかにすることができます。

報告

チューリッヒがマネー・ローンダリングやテロリストに対する資金供与に関与するリスクにさらされる活動や取引が疑われる場合は**声を上げてください**。従業員は、マネー・ローンダリングやテロリストに対する資金供与の可能性のある疑わしい活動を、さらなる分析を行うためにマネー・ローンダリング防止責任者(AMLO)、またはAMLOからこの業務を委任された従業員に速やかに報告する必要があります。

